

(4)水質の予測・評価に関する意見

①河川水質の予測・評価に関する意見

分類	主な意見の概要	事業者の見解
河川水質	<ul style="list-style-type: none"> 平成14年度の大雨時の連続観測のみ濁度を測定しており、他の調査試料のSS濃度測定との比較検討が必要。 	<p>降雨時の連続観測は、器機観測のため光学的に測定する濁度で濁りの程度を把握しています。質量分析で求めるSSとは高い相関があり、検討に当たっての参考値として利用しています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> p3-3ページ、p6-5ページ、p6-6ページの轟川のSSについて、轟川のSSの最大値はいくらですか。また日雨量が100mm程度以上の場合もあるのに、日雨39mm時のデータを示しているのはどうしてですか。(記述の一貫性がない) 	<p>要約書p3-3は、既存資料(平成8・9年)、p6-5は既存現地調査(平成13年)の値を記載したもので、SS濃度の最大値は274mg/Lとなっています。日雨量は、SS濃度の観測地点と降雨の観測地点が異なることから、雨量とSS濃度の観測値が一致するわけではありませんが、SS濃度が最大値を示した日の降水量を参考値として、真栄里ダムの降水量39mm/日を示しています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 河川の水の濁りの予測において用いられている降雨時のSS濃度274mg/mlは、降雨量5mm/hとなっており、降雨量の代表値として疑問である。 	<p>河川の赤土等による水の汚れの予測は、降雨時の現地調査結果の中から、処理水の放流口付近の濁りが最大の時点のデータを用いており、最大値は、274mg/Lとなっています。また、SS濃度274mg/Lを観測した平成14年9月6日は、真栄里ダムの降水量で39mm/日を記録しています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 河川の水質を判断するには、降雨時の測定を考慮しなければならない。 	<p>降雨時の河川の水質調査は、平成13年5月から平成16年6月まで、合計6回と、平成14年7月から平成15年3月までは流量と濁度の連続観測を実施しており、その結果を踏まえて降雨時の河川のSS混合濃度を予測しています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 周辺地域との複合的な影響や滑走路などの油類等々の影響について再度検討していただきたい。 	<p>滑走路の油類等の影響については、類似空港においても報告はありません。</p>

②海域水質の予測・評価に関する意見

分類	主な意見の概要	事業者の見解
海域水質 (潮流)	<ul style="list-style-type: none"> 予定地の山側に降った雨は、予定地で浸透しているが空港が来ると水路により直接海域に放流される。また、ターミナル地区からの排水が新たに加わることから淡水の海域への流入量の変化を予測する必要がある。 淡水の海域への直接放流による地下浸透量の減少等予定地外における変化が考慮されているか疑問である。 	<p>事業実施区域の山側に降った雨は、実施区域の境界で切り回しを行い、一部をボックスカルバートを通じて海域に排出します。この際、現況に比べ、表流水と地下水の量に変化が生じることが考えられますが、総量に変化はないことから、海域への淡水量は変化しないものと考えています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 潮流シミュレーションにおいて、180m、60m、20mの格子に区切って計算しているが、リーフのあたりで180m格子に区切ると、サンゴの地形を再現できず、潮の干満によるクチの影響がわからなくなる。 	<p>轟川前面海域の流れの状況を再現するために、轟川前面を20m格子、轟川河口域からカラ岳前面を60m格子と詳細に表現し、60m格子ではモリヤマグチ、スムチグチを表現しています。また、180m格子の計算範囲では、トゥールグチ、ブーグチが表現されており、サンゴ礁の地形、リーフエッジを表現することに配慮しています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> リーフの外側にある比較ポイントにおいて、計算と実測は近似しているといえるが、赤土の拡散などで問題としているリーフの内側における潮流楕円は一致していない。そのため、潮流シミュレーションは再現性がなく、無駄な計算をしている。 潮流モデルは、サンゴ礁の微地形や複雑な潮流が反映されないため計算値と観測値のずれがある。 	<p>リーフ内の現地調査結果では、潮流の弱い傾向が認められ、予測結果はこの観測値の傾向を再現しています。また、潮流楕円の長軸方向と大きさについても、比較点を個別にみると計算値の楕円が観測値に比べてやや小さい地点もみられますが、全体的には観測値の傾向をよく表していると判断しました。</p>